



〔評者〕

勝俣 範之

日本医科大学武蔵小杉病院
教授・腫瘍内科

緩和ケアレジデント マニュアル 第2版

森田 達也，木澤 義之 監修

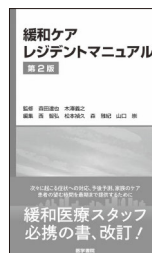
西 智弘，松本 禎久，

森 雅紀，山口 崇 編

●B6変型 頁536 2022年5月

定価：3,960円（本体3,600円＋税10%）

[ISBN978-4-260-04907-8] 医学書院刊



緩和ケアは、「診断された時からの緩和ケア」として、がんが診断された時から提供されるべきとしています（厚労省，2012年）。この『緩和ケアレジデントマニュアル 第2版』は，日本の緩和ケアの第一人者の先生方が中心になって，最新の情報をもとにつくられた実践的な教科書であり，マニュアルです。

近年，緩和ケア研究は，治療研究にも劣らず，たくさんの臨床研究が行われ，多くのエビデンスが積み重ねられてきています。本書では，その得られた最新かつ最善のエビデンスをベースに，きちんとレビューされ，ていねいな記載がなされている点が素晴らしいと思います。また，文献にはPMIDを記載してくれているので，実際に参照するうえでとても便利です。さらに，おのこの治療やケアに対して★がつけられており，★は「観察研究などがある」，★★は「RCTが1つある」，★★★は「メタアナリスまたは複数のRCTがある」としていて，とてもわかりやすいです。

本書は，がんの緩和ケアだけではなく，非がんの緩和ケアについても書かれています。今後は非がん患者にも緩和ケアが広がっていくと考えられますので，がん以外の医療従事者にとっても役に立つものと思われる。細かいところですが，表紙の裏側の見返しの部分にはオピオイドの換算表が載っているため，必要なときにはすぐ調

べることができます。このように細かいところまで気を配られていますし，各項目の記述に関しては，きちんとレビューがなされているせいか，かなり細かいエビデンスに関しても，信頼できる記述となっています。私も数多くの書籍の編集作業をしてきましたが，この本のように多くの執筆者がいる場合，整合性の問題やエビデンスの考え方を統一させる点など，編集作業は並大抵ではなかったと思われますが，編集作業をされた監修，編集の先生方に敬意を表したいと思います。

今後，がん診療で大切なことは，がん治療医と緩和ケア医との連携をどのようにうまくやっていくのか，という点であると考えています。本書では，早期緩和ケア（early palliative care）に関しては触れられていませんが，早期緩和ケアは，がん治療医と緩和ケア医が連携して行っていくべき大切なことですので，次回改訂時には，早期緩和ケアもぜひ紹介していただきたいと思います。

この本は，将来緩和ケアをめざす若き医師だけではなく，緩和ケアにかかわる医師を含めた医療従事者は必携の本と思われます。また，がん治療医もぜひ手に取ってほしいと思います。そして，日本の緩和ケアの質が少しでも向上し，がん患者さんの助けになることができるように期待します。